

土浦日本大学中等教育学校

中学入試

高校入試

住所 茨城県土浦市小松ヶ丘町4-46

電話 029-835-3907

FAX 029-835-3905

URL <http://www.tng.ac.jp/sec-sch/> LINE @TNUSS

帰国生受け入れ開始年度 2003年

2019年度帰国生在籍数 中学1年:2人 中学2年:4人 中学3年:3人 高校1年:2人 高校2年:5人 高校3年:7人

帰国生のための部署/担当 国際教育部/国際教育担当 安藤隆 先生 問い合わせ先 副校長 堀切浩一先生(horikiri@tng.ac.jp)

帰国生入試について

出願資格・条件	(2019年度入試) A.海外入試 出願時において海外に在住しており、下記のいずれかを満たす者。①海外在住期間が2年以上である者。②海外在住期間が1年以上で、その期間中、現地校またはインターナショナルスクールに在籍している者。 B.帰国国際生入試(国内会場) 次の①~④のいずれかに該当する者。①海外在住期間が2年以上で、帰国後3年以内の者。②海外在住期間が1年以上で、その期間中、現地校またはインターナショナルスクールに在籍し、帰国後3年以内の者。③国内のインターナショナルスクールに在籍する者。④国内の学校に在籍し、特に英語学習の進んでいる者(TOEFL iBT 42点以上、TOEIC550点以上、英検2級以上、またはそれらと同等の英語力があると認められる者)				
出願書類	A.海外入試 ①志願者身上書 ②学習履歴書 ③成績証明書または通知表の写し ④海外在住証明書 ⑤TOEFL、実用英語技能検定等のスコア用紙・合格証明書のコピー(提出可能な者のみ) B.帰国国際生入試(国内会場) ①学習履歴書 ②応募資格を満たすことを証明するもの(在学証明書など、写しも可) ③6年次1学期の通知表の写し				
過去3カ年の応募状況 (中学入試)		出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
	2019年	10	10	9	0
	2018年	8	8	8	0
	2017年	6	6	6	2

帰国生の編入試験について

出願資格・条件	編入学後に通学可能な地域に居住するか、または本校の学生寮での生活を希望する本校を第一志望とする生徒であり、次の条件①~③のいずれかに該当する者。 ①現在、日本国外に在住する生徒で、日本人学校、インターナショナルスクールまたは現地校等に在籍している者。②国内のインターナショナルスクールに在籍する者。③海外在住から帰国後、3年以内の者。
出願書類	① 帰国生等編入学志願者身上書 ② 学習履歴書 ③ 成績証明書(原則として過去3年分) ④ 在学証明書 ⑤ ③④が国内の学校にて発行される場合、海外在住歴を証明するもの(在住当時の成績表の写しなど)
募集	5学年(高校2年)
実施時期	3月末まで随時

クラス配置・一般生との位置づけ

本校は大規模校ではありませんので、一人ひとりの帰国生に対して、入学までの個々の生活環境や学習環境を十分に理解した上で指導にあたるように心がけています。担任の教員はもちろん、教科担当、部活動担当など様々な教員が目配りし、ご家庭とも連携を取りながら取り組んでいます。後述の学習指導面はもちろん、本校の生活環境に早く慣れるとともに、帰国生の多様な海外生活経験をアドバンテージとし、生き生き、のびのびと学校生活を送ることができるような環境の整備を心がけています。保健室にはスクールカウンセラーもおり、生徒本人や保護者の方からのご相談を受けることも随時可能です。

外国語・日本語の指導、取り出しや補習など

高い英語力を保持している生徒に対しては、英語の取り出し授業を実施しています。前期課程では、通常クラスの日本人教員4~5コマ、外国人教員2コマの授業を取り出し授業では外国人教員が4~5コマを担当し、アカデミックな英語力の伸長を旨とし、少人数で密度の高い授業を行っています。日本人教員からは、帰国生が手薄になりがちな英文法を学びます。また、今年度の3学年からスタートした選抜制の「理系インタークラス」では、先駆的な理科・数学教育を中心に、英語をツールとして駆使しグローバルに活躍できる生徒の育成を目指しています。日本語やその他の科目で学習進度に差が生じている場合については、担任や教科担当が連携を取り、個別にサポートを行っています。放課後の課外授業も充実しており、補習の意味合いを持つものから、さらなる応用力伸長を図るものまで、様々な講座が用意されています。

入試に向けての事前準備や意識しておいてほしいこと

帰国生の学習・生活環境はそれぞれ多種多様ですので、ぜひ一度学校見学を兼ねてご相談に来校していただきたいです。一人ひとりの状況に応じて、アドバイスを差し上げることができると思います。日々の海外生活では、確実な英語力を身につけておくとともに、日本語の新聞やニュース記事などにも触れ、日本語の読解力も身につけておくことが大切です。また、潜在先の様々な文化的・社会的出来事にも目を向け、海外経験をポジティブにとらえ、帰国後にその経験が強みとなるような視点から、日々生活していただければと思います。

帰国生の卒業後の進路・進学状況について

帰国生は、英語力を強みとして、国内外の国公立・私立難関大学、海外の難関大学に進学する生徒が多数あります。文系の生徒だけでなく、英語を武器として理系方面での進学を果たし、研究の道に進む生徒もおります。日本大学の付属生として、付属推薦を活用した進学も可能です。

留学制度や海外大学進学支援体制について

後期課程(高校生)において、交換留学制度を活用することが可能です。また、5・6学年(高2・高3)の英語の授業においては、海外大学進学希望の生徒は取り出しクラス(overseasクラス)が設置されています。TOEFL、IELTS、SATといった海外大学進学に必要な試験の対策を行うとともに、留学指導経験豊富な教員がカウンセリングも行ってまいります。

帰国生や海外在住生徒保護者へのメッセージ

本校は、2003年の創設以来、中学入試や随時実施の途中編入学を通して、帰国生の皆さんを積極的に受け入れてきました。充実した英語・国際教育に加えて、先述の理系インタークラスを始めとした理数教育にも力を入れております。海外生・帰国生の皆さんの多様な独自の経験を活かし、長所をさらに伸ばすことを可能とする体制で、皆さんをお待ちしております。ぜひ一度、ご都合のよろしい日にご予約のうえ、学校見学にご来校ください。

帰国生対象の英語教室や各種講座について

高い英語力を持った生徒対象の取り出し授業(アドバンスクラス)が行われています。また、放課後課外授業はレベル別無学年制となっていますので、前期課程(中学生)の生徒が高校・大学受験レベルの講座を受講することも可能です。また、外国人教員による放課後の実用的な英語講座も各種用意されています。